

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 21 年 11 月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

女岳（めだけ）北東斜面の噴気地熱域では地熱域のわずかな拡大が認められました。また、以前から地熱の高まりがみられる女岳山頂北部の噴気地熱地帯の熱活動に特段の変化はありません。地震活動は低調な状態で推移しています。

ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・熱活動の状況（図2～4）

12日に岩手県の協力により岩手大学と共同で、12月1日には陸上自衛隊と秋田県の協力により上空からの観測を行いました。今年8月28日に確認され、10月にかけて下方へ拡大した女岳北東斜面の噴気地熱域では、地熱によると思われる融雪域が見られ、地熱域がわずかに拡大しているのが認められました。また、以前から定常的に地熱の高まりがみられている女岳山頂北部の噴気地熱地帯は、前回（2009年10月22日）の現地調査と比べ、地表面温度分布¹⁾などに特段の変化はなく、新たな地熱域は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図5）

火山性地震は少ない状況が続いています。

火山性微動は観測されませんでした。

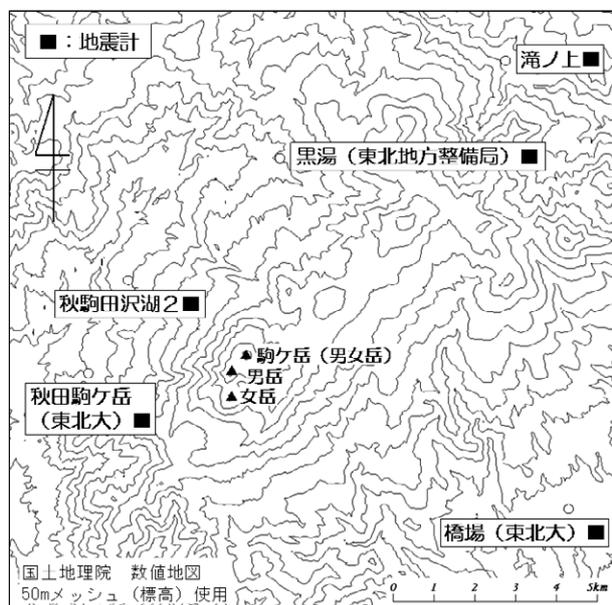


図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成21年12月分）は平成22年1月8日に発表する予定です。

資料は気象庁のデータその他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）。

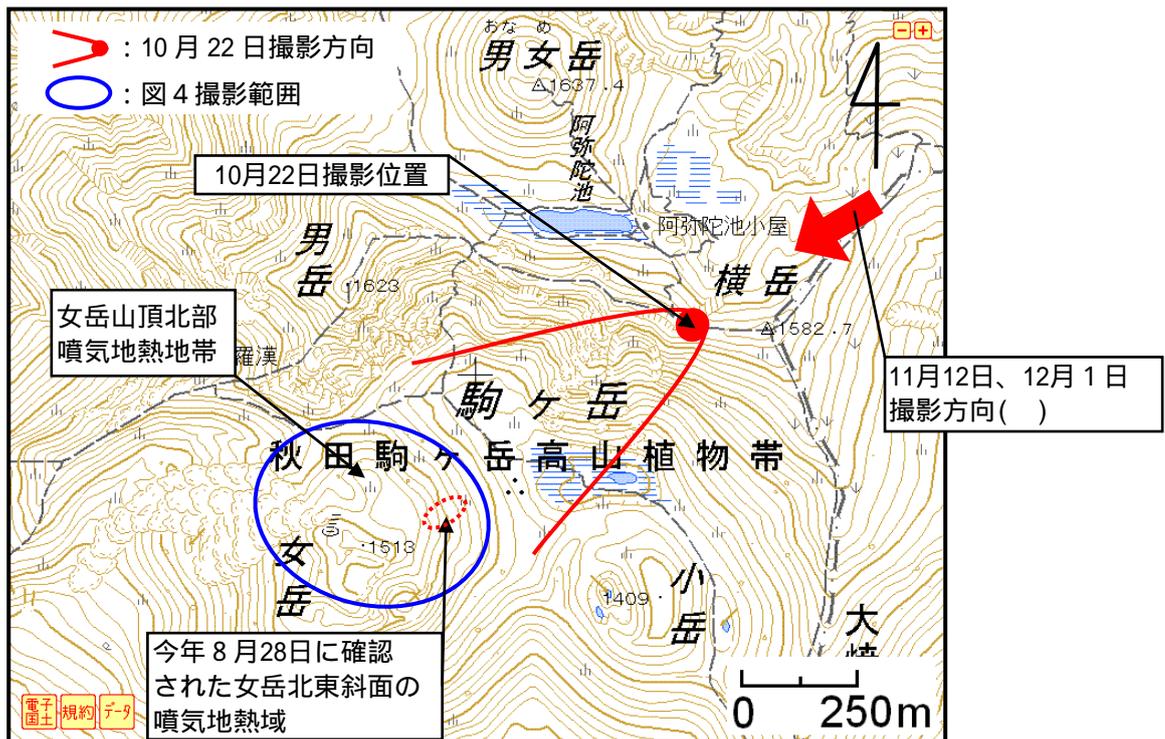


図2 秋田駒ヶ岳 地形図と地表面温度分布¹⁾ 観測地点
 () 上空から撮影されたため、図中ではおよその撮影方向を示します。



図3 秋田駒ヶ岳 女岳北東斜面の可視画像（2009年12月1日（陸上自衛隊と秋田県の協力により上空から撮影））

- ・図の実線赤色囲みの中央部分の融雪は、地熱によると思われる。
- ・図の実線青色囲みの領域内で黒く見える部分は、樹木のため雪が付きにくくなっていると考えられる。

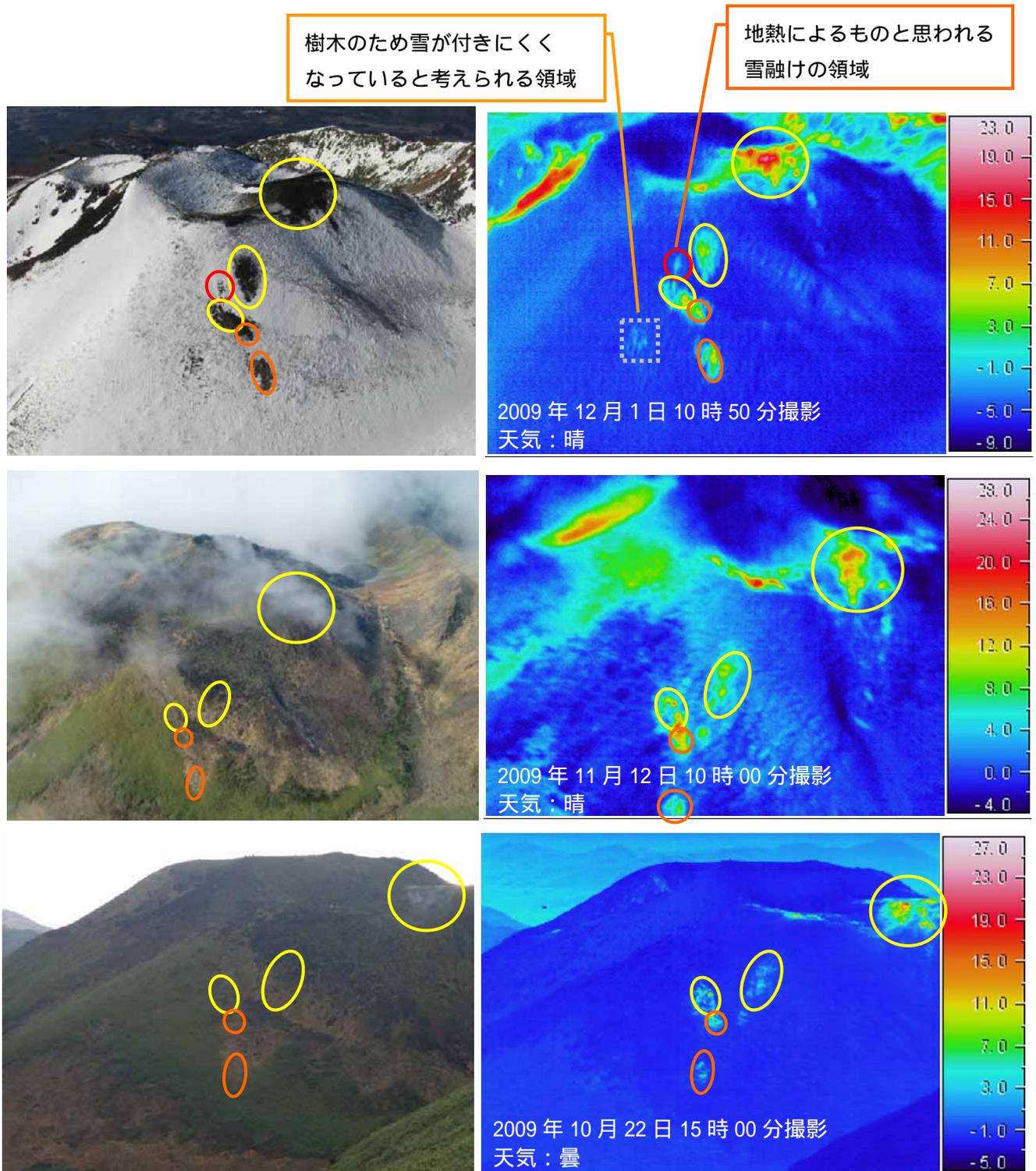


図4 秋田駒ヶ岳 女岳北東斜面の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）（詳細）

（上段：2009年12月1日（陸上自衛隊と秋田県の協力により上空から撮影）

中段：2009年11月12日（岩手県の協力により上空から撮影）

下段：2009年10月22日）

- ・ 図の実線赤色囲みの領域が、12月1日の調査でわずかな拡大が確認された地熱域です。
- ・ 図の実線橙色囲みの領域が、10月22日の調査で拡大が確認された地熱域です。
- ・ 図の実線黄色囲みの領域が、10月22日の調査の前から確認されていた地熱域です。
- ・ 図の破線灰色囲みの領域が、樹木のため雪が付きにくくなっていると考えられる領域です。
- ・ 図中の囲みの無い領域で、温度が高く表現されている部分は、日射による影響を受けていると考えられます。

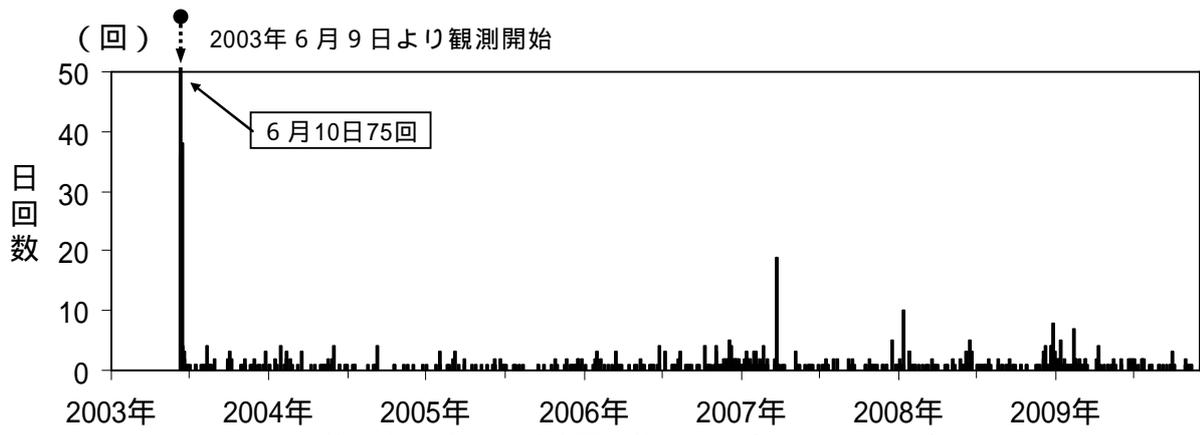


図5 秋田駒ヶ岳 日別地震回数(2003年6月~2009年11月)